SCSK
夢ある未来を、共に創る。

21年３月期 通期業績総括

代表取締役
執行役員 社長 最高執行責任者
谷原　徹

2021年4月28日

SCSK株式会社

Copyright © SCSK Corporation

SCSKの成長戦略としてのサステナビリティ経営

経営理念
「夢ある未来を、共に創る」

経営理念の実践
-マテリアリティ-

目指す姿
-グランドデザイン2030-

中期経営計画
（FY2020~2022）

経営理念実践のためのマテリアリティ

■SBT認定の申請
■グリーンファイナンス・フレームワークを策定

Copyright © SCSK Corporation

中期経営計画　基本戦略（21年3月期～23年3月期）

■ 3つの基本戦略と経営基盤強化により、グローバルベースで事業を拡大

事業革新

業務プロセスと顧客接点の
革新で**競争優位を確立**

人財投資

高度化・多様化・拡充で
事業成長を加速

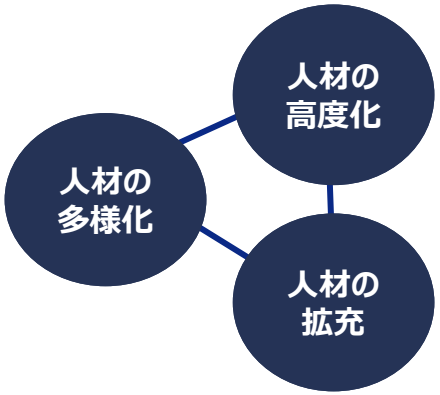
DX事業化

顧客・異業種・グローバル共創
により**新たな事業を創出**

S-Cred+（エスクレド プラス）

高生産性を実現する
「ものづくり革新」

顧客との価値共創型へ転換する
「“分室”革新」



❶ 顧客共創
❷ 異業種共創
❸ グローバル共創

Copyright © SCSK Corporation

中期経営計画　基本戦略（21年3月期～23年3月期）

SCSK
夢ある未来を、共に創る。

■ DX事業化：自らが事業主体となり、共創を広げ、新たな事業やサービスを展開

1 モビリティ領域

社会課題

・持続性ある安心・安全な交通システムの実現
(高齢者・過疎地域の移動手段、渋滞解消 等)
・CO_2排出による気候変動リスクの低減

テレマティクス技術を活用した事故対応システム「テレマティクス損害サービスシステム」の提供を開始

→保険業だけでなく、フリートリース業等、自動車に関わる全てのライフサイクル関連市場へのサービス展開を検討中

2 金融サービスプラットフォーム領域

社会課題

・国内：デジタル化がもたらす環境変化に対応する金融システムの高度化
・新興国：健全な経済発展に資する金融システム

金融商品・サービス仲介事業者向け「システムソリューション基盤構築」に向けたサービス提供予定

→「資産運用アドバイスソリューション」ニーズの高まり
→2021年６月に、新規事業「日本版TAMP」の提供予定

3 ヘルスケア領域

社会課題

・医療格差の是正(医師不足対応、地域医療充実)
・適切な投薬利用等による医療費低減
・健康寿命延伸による社会保障機能の維持

医薬品の流通・処方情報をスピーディーに提供する「Pharmacy-Scope(ファーマシースコープ)」の提供を開始

→製薬・医療機器・卸のデータを使った分析を活用
→医療従事者、さらにはその先の患者・個人へのサービスへ

4 ＣＸ（ｶｽﾀﾏｰｴｸｽﾍﾟﾘｴﾝｽ）領域

社会課題

・多様化する価値観を捉えた産業の発展
・顧客の声をデジタル技術の活用により商品化、サービス化に繋げ、豊かな社会を創造

デジタルマーケティング、デジタルコミュニケーション、ECを統合したCX領域サービス「altcircle（オルトサークル）」の提供を開始

→EC関連領域のニーズの高まり、顧客接点強化は必要不可欠
→複数社と本格導入へ向けて取り組み中

Copyright © SCSK Corporation

21年3月期決算
通期連結業績サマリー

（単位：億円）

	20年3月期	21年3月期	増減額	増減率
売上高	3,852	**3,968**	*115*	*3.0%*
営業利益	400	**458**	*58*	*14.6%*
親会社の所有者に帰属する当期純利益	287	**334**	*46*	*16.2%*

Copyright © SCSK Corporation

21年3月期決算
コロナウイルス感染症の影響

外部動向

- 感染拡大の影響を受け、サプライチェーンの混迷等により経済活動が鈍化、継続。
- 企業の投資に対する姿勢に跛行性が見られる状況。
- 顧客企業においてもリモートワークを主体とした非対面・非接触の動きが加速。

第３四半期

- 第２四半期以降、顕在化した投資案件に対し、顧客との対面による機会が回復した事で、意思決定や予算執行に時間を要していた案件が進捗。
- リモート化やデジタル化の需要、顧客接点領域の強化関連の需要は継続。
- 中長期的な視点は、変わらず。【事業革新】及び【DX事業化】が進展すると考えられる。
- 第３四半期においては、事業環境は改善傾向にあるが、感染拡大第3波から緊急事態宣言が再度発令、予断を許さぬ環境の中、投資動向の不透明感は継続。

現在

- 第３四半期は経済活動も徐々に動き出した折に、再び１月、緊急事態宣言が発令されたが、顧客企業との営業接点における変化は限定的。
- DXを想定したレガシーシステムの再構築、戦略的事業領域へのIT投資需要は継続。
- 中長期的な視点は、変わらず。【事業革新】及び【DX事業化】が進展すると考えられる。
- コロナ禍が継続する環境において、デジタル化が加速する一方で、内製化や投資の先送りを含む、顧客にとって変革に必要な投資の選別が進むという側面もあると考える。

SCSKにおける対応

- 感染拡大防止対策を継続し、生産性を意識した働き方へ

Copyright © SCSK Corporation

22年3月期
中期経営計画を加速するための体制再構築

■ デジタル社会に求められる経営のスピード感への対応、
よりダイナミックな戦略遂行にむけた事業体の構成等を目的に、組織改編

CORE 事業グループ	①産業事業グループ ②金融事業グループ ③ソリューション事業グループ ④プラットフォーム事業グループ
NextCORE 事業グループ	⑤モビリティ事業グループ ⑥ビジネスデザイングループ ■デジタルイノベーションセンター ■グローバルセンター ■ヘルスケアセンター ■CXセンター

■ SCSKグループ子会社再編
中堅企業市場を新たにターゲット層とした再編、および九州地域事業の集約
Minoriソリューションズ／Winテクノロジ／CSIソリューションズ／SCSK九州

Copyright © SCSK Corporation

22年3月期
通期連結業績予想/配当予想

■業績予想

（単位：億円）

	21年3月期 実績	22年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	3,968	**4,200**	*231*	*5.8%*
営業利益	458	**480**	*21*	*4.6%*
親会社の所有者に帰属する当期純利益	334	**340**	*5*	*1.7%*

■配当予想

	21年3月期 実績	22年3月期 予想	増減額
一株当たり年間配当金(円)	135	**140**	*5*

Copyright © SCSK Corporation

中期経営計画（21年3月期～23年3月期）

SCSK
夢ある未来を、共に創る。

■ 3つの基本戦略と経営基盤強化により、グローバルベースで事業を拡大

【経営基盤強化】

- グループ総合力強化（組織間連携の推進）
- 人を活かす経営の推進
- 共創の企業文化づくり

経営指標

売上高	営業利益率	ROE
5,000億円以上	10.0%～12.0%	15%以上

□ 資本効率性指標 ： 中期経営計画期間のROIC維持目標レベル：10~12%

Copyright © SCSK Corporation

夢ある未来を、共に創る

お客様からの信頼を基に、共に新たな価値を創造し、
夢ある未来を拓きます。

Copyright © SCSK Corporation

＜ 免責事項 ＞

・本資料は、当社グループの業績及びグループ事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社及び当社グループ会社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

・本説明会及び資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

・本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようにお願い致します。

Copyright © SCSK Corporation